

農業技術 プリズム

性フェロモン剤とは、キャベツなどの害虫である蛾（が）類の雌が雄を誘引するために空中に放出する匂い（性フェロモン）を化学的に合成し、樹脂製のチューブなどに封入した製剤のことです。性フェロモン剤を圃場（ほじょう）全体に配置して雌の匂いを充満させると、雄が雌を探ることが困難となり、交尾、産卵が阻害され、次世代の幼虫数が抑制されます。このことを交信攪乱（かくらん）効果といい、環境に優しい防除法として期待される技術です。

場で、交信攪乱効果を検討しました。その結果、性フェロモン剤（商品名IIコンフェューザーV、通常処理量100本/10ア）は、ハスモンヨトウに対して効果が高く、オオタバコガ、

性フェロモン剤による交信攪乱効果 環境に優しい防除法 被害減り可販率向上

コナガにも効果が認められました。処理量を通常の3分の2や半分に低減しても、通常処理とほぼ同等の効果がありません。実際の収穫物にも被害の軽減が認められ、可販率が向上しました。

性フェロモン剤の効果(2013年)

処理量 (通常比)	モニタートラップ捕獲虫数			キャベツ収穫物		
	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	コナガ	被害度	可販率1	可販率2
2/3量	11	140	83	24	87%	100%
1/2量	31	377	30	26	76%	100%
無処理	10141	2750	493	35	66%	88%

※調査期間:9月5日~11月19日 ※通常処理:100本/10a ※モニタートラップ捕獲虫数が少ないほど交信攪乱効果が高い ※可販率1:青果用を想定可販率2:加工用を想定 ※全区とも農家慣行に従って薬剤散布を実施 ※被害は性フェロモン剤の効果がないモンシロチョウによるものが多い

たII表。経費は通常処理で10ア当たり約1万円かかります。今後は環境負荷を一層低減するため、性フェロモン剤と黄色灯（夜間点灯し、蛾類成虫の圃場への侵入を防ぐ）を組み合わせた蛾類害虫の防除技術確立に取り組んでいきます。
（県農林技術開発センター・植松綾子）